りとるらいふ通信

（社福）みんなでいきる
障害福祉サポートセンター
りとるらいふ
発行日：2022 年4月

春の陽気と共に、今年度がスタートしましたね。
今年は高田城の観桜会も飲食スペースが設けられ、春休み中、お花見に行かれた方も多いのではないでしょうか…!?みなさんの春休みの思い出を職員に教えてください‼
さて、そんな春うららかな新年度初めての通信のトップ記事は…
「令和４年度各事業所目標」です！また、今年一年、皆様とたくさんの思い出や経験、繋がりが出来るようにと考えた各事業所の〝想い〟を是非、ご覧ください！！
それでは、とうぞ！！

令和4年度各事業所目標

きら

① お一人おひとりの「その人らしさ」を尊重した支援にこだわり、「想い」に沿った支援を追求します
② 職員一人ひとり、目標を持って自ら考え、実践し、資質や専門性の向上を目指します
③ 先を見据えた、計画的で持続可能な事業所運営を行います

とも

① ご利用者一人ひとりの想いに寄り添い、より良い支援を目指します
② 職員一人ひとりがやりがいを持ち働ける職場環境作りに努めます
③ 他事業所との連携を深めます

ららん

① 支援力の安定
② 活動内容の考案
③ 『報告、連絡、相談』の徹底継続

にこ

① 日常生活動作と余暇活動の充実
② 他事業所との連携
③ チーム支援の向上と調和

もーと

① 支援を主体的に考え、実践する
② 安心・安全の環境作りを徹底する

ぷあん

① 職員が働きやすい環境を整えます
② ご利用者様が安心して過ごせる環境を整えます
③ 整理整頓を心がけます

ふぁみりあ

① 「その人らしさ」の支援をチームで考え実行する
② 余暇活動を入居者さんと一緒に楽しむ
③ 緊急時の対応強化と権利擁護を学ぶ

各部門活動報告

きら

３月の制作活動についてお伝えします。カレンダー、おひなさまの壁飾り、コロコロお雛様を制作しました。
壁飾りのお花は皆さん少し広げる作業に苦戦していましたが、出来上がった時には笑顔が見られました。
お人形はお一人お一人個性あるとっても可愛らしい“おひなさま”が出来上がりました。

とも

ともでは、フィンランド発祥のとあるゲームに挑戦しました。その名は“モルック”。数字の書かれたピンに向かってピンを投げ、倒した分の合計点を競います。一見ボーリングと似ているようですが、テクニックより運が勝負の鍵を握るゲームということで、ワクワクしながら楽しめました！

ららん

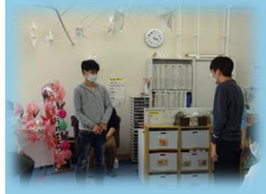
３ 月生まれのお誕生日会の様子をお伝えします。主役席に座って緊張気味のお友だちに、みんなでハッピーバースデーを歌い(^^♪質問コーナーでは、がんばることや楽しみにしていることを聞いてみました。３月で卒業を迎えるお友だちからは「仕事を頑張ります。」と頼もしい言葉が聞かれ感動しました。

もーと

もーとでは、３月に卒業進級のお祝いパーティを行いました🌸
翌日に卒業式を控えたお兄さんを送り出す「前夜祭」では、
お兄さんから出題される超難問クイズに苦戦しながらも…
見事正解し、お兄さんから一人一人メダルをかけてもらい、大喜びの子ども達でした！

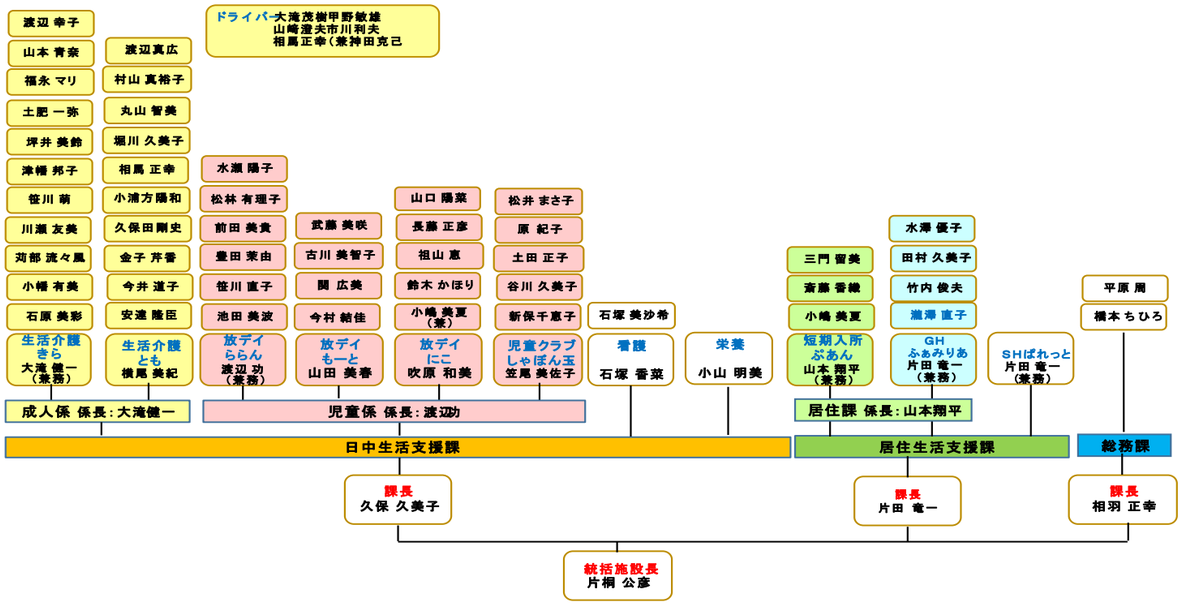
にこ

卒業をお祝いする会で感謝状を受け取る卒業生。少し恥ずかしそうにしながらも両手でしっかり受け取りましたよ。おやつの時間にはたくさんお話し、
たくさんの笑顔が見られました。
「ありがとう」「にこ楽しかった」の言葉に涙ぐむ職員😢
卒業おめでとうございます！



令和４年度
障害福祉サポートセンター りとるらいふ　職員組織図

※障害福祉事業部りとるらいふは、令和４年度より法人の組織改編により
「障害福祉サポートセンターりとるらいふ」と変わります。宜しくお願い致します。



職員異動内容

異動

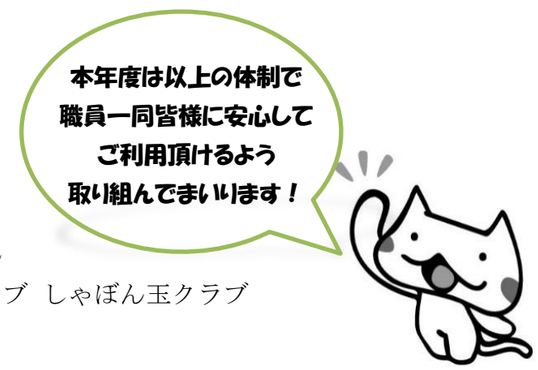
笹川	隼也	生活介護 とも	⇒	若竹寮
坪井	美鈴	放課後等デイサービス ららん	⇒	生活介護 きら
丸山	智美	放課後等デイサービス にこ	⇒	生活介護 とも
長藤	正彦	生活介護 とも	⇒	放課後等デイサービス にこ

退職

大島	恵美子	生活介護 とも
山内	悦子	放課後等デイサービス にこ
井上	八重子	共同生活援助 ふぁみりあ
藤巻	祥子	高田西小学校 放課後児童クラブ しゃぼん玉クラブ

入職

瀧澤	直子	⇒	共同生活援助 ふぁみりあ
石原	美彩	⇒	生活介護 きら
堀川	久美子	⇒	生活介護 とも
渡辺	真広	⇒	生活介護 とも
豊田	茉由	⇒	放課後等デイサービス ららん
新保	千恵子	⇒	高田西小学校 放課後児童クラブ しゃぼん玉クラブ



この季節に思う事

日中生活支援課　課長　久保久美子

この季節になると、いつも必ず感じることがある。

ひとつは、別れと出会いから生じる「感謝」の気持ち。
この時期と言えば、高等部３年生とは放課後等デイサービスの卒業として別れを迎え、そして同じく高等部卒業生からは生活介護事業所での利用開始という出会いが始まる。
ららん・にこ・もーとで最終利用日や卒業式後にご本人と保護者の方が来てくれてお会いできると、いつもこう思う。「りとるを選んでくれてありがとうございました」と。児童期は、その人の人生の中で、心も体も著しく成長するとても大事な時期であると思う。それが故、どんな人と出会い、どんな環境で育つのかがとても大きく影響する。そんな大切な時期の支援者として、りとるらいふを選んでいただき、お子さんの支援を託していただけることは、この上ない責任と感謝を感じるものであるのだ。長い方は 12 年もの間携わらせていただくことができ、様々な成長を見届けさせていただけるわけで、卒業時にはなんだか勝手に親心のように成長したお子さんを想い、送迎等の日々を頑張った保護者の皆さんに頭が下がる思いになる。

そして、成人期を共に歩ませていただくという生活介護の現場で、新たなご利用者に思うことは、この先長く過ごす場所として選んでいただいたことに対する感謝である。放デイの現場には終わりがあるが、生活介護にはそれがない。そして放デイの現場は、主な生活時間帯に学校という大きな柱がある中での共同支援者として自分たち福祉が存在するが、成人期の生活介護では主な生活時間帯の責任を私達福祉一手で担う事となる。この違いは大きいと日々感じる。私達の支援現場が、その人の人生そのものの大きな軸となるわけであり、その過ごしへの責任は大きいと思う。だからこそ、まだまだ微力な自分たちではあるが、精いっぱい考えて向き合わせていただかなくてはと心から思うのである。

この時期に感じるもう一つは、りとるらいふの原点への思いである。

ご利用者様同様、この時期は新しい職員とも出会う時期である。私は管理という立場柄、新入職員に対して最初に「りとるの思い」を伝える場を持つ。「なぜ私たちはジャージの制服を作らず私服にしているのか」「なぜこのような住宅地で事業を展開しているのか」「なぜ児童通所の場・成人通所の場・短期入所・グループホームなどを小規模でたくさん展開しているのか」そのひとつひとつには理由があり、その理由はすべて私たちりとるらいふの理念の合言葉「地域で暮らす」ということから始まっているのだと伝える。そう伝えていると、ふと我に返る。“あれ、今の自分たちはきちんとその思いを心に仕事出来ているだろうか”と。この時期に新入職員に話すからこそ、私は毎回その原点に立ち返る機会を持つのだ。組織規模が大きくなり多くの利用者の皆さんの支え手となった今のりとるらいふでも、その原点は変わらない。「地域で生きる」を、同じ目線で、対等な人として、一緒に支えあいたい。新たな職員はもちろん、私も、今現場で働いている職員も、皆でまた原点の思いを大事に今年度も歩めたらと思う。

今年度もそんなことを想いながら、４月という季節を感じて仕事をする私でした。

最後に…

令和４年度、通信委員を
務めさせていただく事になりました。
左から… 小浦方、武藤、苅部です。
皆様に、りとるの「今」を
知って頂けるよう頑張ります！
１年間、よろしくお願いします😊